

令和7年度 事業報告

2025年4月1日 ～ 2026年3月31日

特定非営利活動法人みずうみ

令和7年度の組織目標

- (1) 工賃の回復
- (2) 利用者様が楽しく通い続けられる事業所づくり
- (3) 「現場の課題の見える化」による生産性向上

I 令和7年度の重点的取り組み

(1) 工賃の回復

1 新規事業の準備と開始

計 画	結 果
1) 事業内容の決定と地域との連携体制づくり	昨年度中に、新規事業として焼きいもの販売を検討したが、いもを仕入れるのではなく自前で作ってみるということで、西浜いもの生産に試験的に着手した。 かんしょ組合の方に畑づくりを委託し、それ以降の作業は当事業所の利用者様と職員で行った。 当初は営農センターから「来年度以降も生産を続けるのであれば、今年度から JA からの出荷が可能」と聞いていたが、収穫が終わった時点でかんしょ組合が JA からの出荷に難色を示され、ラピタ産直会や温泉での販売を余儀なくされた。しかし順調に販売でき、3/19 に完売。 今年度は職員体制がなかなか安定せず、事業の本格的実施に困難を感じていたが、年度末にようやく体制の目途が立ち、実施に向けて準備を進めて

	いくこととなった。 <u>来年度</u>職員体制が整ったため、昨年度と同じ規模で事業を継続する。かんしょ組合の了解も得られたため、JA から出荷する。また、加工等について検討を行っていく。
2) 計画立案と各種助成金やサポート事業の申請	計画立案や助成金等の申請には至らなかった。 <u>来年度</u>トラクター等の農機具や、加工機器の購入が必要となれば、計画、助成金申請を行う。
3) 準備ができ次第、事業を開始する	砂子に畑を借り、800 本の苗を植えた。猛暑のなかの草取りや水やりは熱中症の危険もあったがなんとかやり切り、利用者様からは「楽しかった。また来年もやりたい」と意欲的な声が聞かれた。病虫害もなく順調に生育し、良いものが沢山でき、ラピタ産直会等で 400 袋（700g／袋）、温泉・みずうみでも 300 袋相当分が無事完売。苦情もまったく聞かれなかった。 ＊収支状況 収入 201,511 円－支出 61,320 円＝工賃 140,191 円 <u>来年度</u>JA から出荷すると産直より少し高くなるようだが、加工によって利益率をできるだけ上げることが検討していく。

2 一人ひとりの力を引き出す支援

計 画	結 果
1) 職員間の情報共有による作業指導の統一 ⇒作業能力向上（質・量の向上）	利用者様の課題を職員が共有することで、全職員が同じ意識を持って課題の修正やアドバイスを行った。指導方法を統一することで利用者様も迷うことなく作業できた。また、なかなか作業に気持ちが向かない利用者様には、職員が役割を分担し、硬軟織り交ぜて声掛けするよう心掛けた。 <u>来年度</u>利用者様のウイークポイントなどの情報を共有し、そつなく点検し質と量の向上に努める。また全職員が常に「三配り」を意識して支援に努める。

2) 作業時間と休憩時間のメリハリをつける ⇒社会性・生産性向上	作業中、体調に合わせ自由に休憩してもらっているが、中には体調に関係なく長時間休憩される利用者様もおられる。その状態が広がると作業がはかどらないので、体調不良を訴える利用者様には休憩室ではなく和室で休んでもらうことにした。それにより、長く休憩室で過ごしておられる利用者様には作業に戻るよう声掛けしやすくなった。また作業中の休憩はトイレや水分補給、眠気覚ましの気分転換程度で、何をしてもいい自由時間ではないこと、スマホの使用は緊急でない限り、決められた休み時間（昼休みや午後の休憩）ですよう指導している。どうしても休憩が延び延びになる利用者様とは面談をして、作業時間が増やせるよう休憩時間を決める等の対応をした。 <u>来年度</u>継続して作業ができない利用者様や気分で作業に向かえない利用者様とは、面談や声掛けを通して作業に向かえるよう努めていく。
3) 一人ひとりの目標設定（数値、金額等） ⇒モチベーションUP	作業にコンスタントに取り組めない利用者様には目標数を設定したり、意欲的に取り組んでもらうため、あえて締め切りを全員に伝え士気を高め取り組んでもらった。自分のタイミングで早く作業を切り上げられる利用者様には、なるべく職員が時間を見計らって、完成させる量を指定し、より長く作業に取り組めるようにした。 <u>来年度</u>目標達成した時はしっかり評価し、徐々に目標数を上げていけるよう職員の声掛けを工夫していく。

3 施設外就労の継続

計 画	結 果
1) 「みつばち」との連携	7年1月末から11月まで、参加できる利用者が2人しかいない状況が続いた。11月に施設外就労の職員が入れ替わったことで、より安定的に実施ができるようになった。 12月に調理師免許を持った新規の利用者様が施設外就労のみ希望して入られ、盛り付けから始められ、調理補助として力を発揮されるまでになった。入れ替わるように今まで参加していた利用者様の

	1人が年明けに退所。膝の不調で長らく参加中止していた利用者1人が復帰され、参加者が3人となった。 当初、調理師免許を持つ利用者様を板前として育てたいというシェフの熱意が高まり過ぎる面もあったため、一度話し合いを持った。その後徐々に利用者様の特性を理解し、得意な作業に集中して取り組めるよう配慮されるようになった。 お客さんは安定的に入っており、大きな問題なく継続されているが、年度末から日曜日も営業されるようになり、シェフの体調も少し心配される。 <u>来年度</u>それぞれの利用者様が特性や体調に応じて無理なく参加継続できるよう、施設外就労の職員やシェフと情報共有、連携して支援していく。
2) 業務内容の見直し	当初の掃除、食器洗い中心から配膳準備までスキルアップされてきたが、調理師免許を持つ利用者様が入られたことで、調理補助が加わった。 <u>来年度</u>参加者一人ひとりの特性に適した作業内容で力を発揮してもらえよう、必要時シェフとも話し合いをしながら実施していく。
3) 参加利用者様への細やかな対応	施設外就労への参加の前後に、心身の体調や行った作業、来客の状況等について話を聞いている。特に新規利用者様は、勉強したい、シェフの期待に応えたいという気持ちから、無理をしていないか十分な注意が必要だった。 <u>来年度</u>様子の観察や聞き取りを密に行い、継続を支えていく。

4 椎茸の収穫量の向上

計 画	結 果
1) 気候変動に対応する温度管理の徹底	温度計をいもの貯蔵管理の方に移動してしまい、あまり徹底できなかったが、気候の変化に応じて設定の変更は適切にできた。 <u>来年度</u>いも用の温度計を購入し、椎茸の温度管理を徹底していく。
2) 設備の維持管理	昨年度コンテナの換気扇のひとつが故障したが、今年度に入ってもうひとつも故障し修理した。 <u>来年度</u>継続する。

3) JA しいたけ部会福祉部参加等による 情報収集	3/13 福祉部意見交換会参加。品種や出荷の方法等の 情報交換、JA が作った「繋げるアプリ」の紹介 を受けた。 <u>来年度</u> 引き続き参加する。
-------------------------------	--

〔7 年度数値目標〕

計 画	結 果																												
①目標工賃＝月 額 20,563円 時間額 303円	実績＝月 額 22,278円 時間額 296円 (前年度実績＝月 額 20,025円 時間額 273円) <table><tr><td>月</td><td>平均工賃</td><td>月</td><td>平均工賃</td></tr><tr><td>4月</td><td>15,961円</td><td>10月</td><td>19,050円</td></tr><tr><td>5月</td><td>16,082円</td><td>11月</td><td>18,272円</td></tr><tr><td>6月</td><td>18,048円</td><td>12月</td><td>21,725円</td></tr><tr><td>7月</td><td>19,277円</td><td>1月</td><td>23,209円</td></tr><tr><td>8月</td><td>20,242円</td><td>2月</td><td>43,859円</td></tr><tr><td>9月</td><td>17,534円</td><td>3月</td><td>20,720円</td></tr></table> カズキ高分子の作業量が非常に増え、7月には10万円を越えたが、あまりに大変なので減らしてもらい、後半は5～6万円で落ち着いた。他の内職も安定的に作業が続き、常に忙しい状況だった。 また、今年度6年ぶりにどんとこい祭に参加し、かき氷販売で118,190円を売り上げた。以前と比べ民間業者の出店が増え、売上は前回の70%に留まった。 1/27の運営指導において、工賃変動積立金の積み立て、取り崩しについて指摘を受けた。 来年度内職の維持、いも事業の継続等により、工賃実績2万円以上を確実に達成できるよう努める。また工賃変動積立金の適正な処理を行っていく。	月	平均工賃	月	平均工賃	4月	15,961円	10月	19,050円	5月	16,082円	11月	18,272円	6月	18,048円	12月	21,725円	7月	19,277円	1月	23,209円	8月	20,242円	2月	43,859円	9月	17,534円	3月	20,720円
月	平均工賃	月	平均工賃																										
4月	15,961円	10月	19,050円																										
5月	16,082円	11月	18,272円																										
6月	18,048円	12月	21,725円																										
7月	19,277円	1月	23,209円																										
8月	20,242円	2月	43,859円																										
9月	17,534円	3月	20,720円																										
②椎茸事業＝JA 出荷重量 4,000kg／年 売 上 金 額 230,000円／月	*売上金額推移 <table><tr><td>月</td><td>売上金額</td><td>月</td><td>売上金額</td></tr><tr><td>4月</td><td>182,714円</td><td>11月</td><td>319,405円</td></tr><tr><td>5月</td><td>259,940円</td><td>12月</td><td>262,068円</td></tr><tr><td>6月</td><td>198,341円</td><td>1月</td><td>233,781円</td></tr><tr><td>7月</td><td>143,887円</td><td>2月</td><td>184,972円</td></tr></table>	月	売上金額	月	売上金額	4月	182,714円	11月	319,405円	5月	259,940円	12月	262,068円	6月	198,341円	1月	233,781円	7月	143,887円	2月	184,972円								
月	売上金額	月	売上金額																										
4月	182,714円	11月	319,405円																										
5月	259,940円	12月	262,068円																										
6月	198,341円	1月	233,781円																										
7月	143,887円	2月	184,972円																										

	8 月	122,034 円	3 月	125,722 円
	9 月	132,976 円	合計	2,494,196 円
	10 月	328,356 円	平均	207,850 円
	R6 年度実績＝合計 2,690,502 円 平均 224,209 円 R6 年度比較し合計 196,306 円の減 平均 16,359 円の減 * 出荷重量 R7 年 1～12 月 3,212kg R6 年 1～12 月 3,501kg R5 年 1～12 月 3,858kg 売上平均額が 6 年度より 7.3%減、5 年度より 5.1%減。出荷重量が 6 年度より 8.3%減、5 年度より 16.8%減。減少の原因として、仕入れた菌床が不良なときがあったこと、菌床の交換を 7 か月に 1 回にしたこと、前年度よりさらに猛暑だったこと等が考えられるがはっきりとはわからない。ただ、菌床の交換が年間 6 回から 5 回に減ったため、来年度から支出が年間 227,520 円程度減る予定。 来年度発生を増やすための工夫を行い、収穫量を少しでも増やせるよう努力する。			

(2) 利用者様が楽しく通い続けられる事業所づくり

1 ひとりひとりのニーズに応える支援

計 画	結 果
1) 利用者様の居場所として、あたたかな関わりを提供する	利用者様が変わった様子があった時、今まではサビ管が主に声かけしていたが、今年度からは職員がそれぞれの立場で声をかけるようにした。これにより、気にかけてくれる人が一人ではないことを感じてもらえるように努めた。 来年度来年度も気配り目配り心配りを合言葉に、職員一人一人が意識を持って利用者様に接していく。
2) 日常的な情報収集とサービス管理責任者への情報の集約、職員間の情報共有	各自が得た情報はすぐに共有するとともに、利用者様や関係機関との面談で得た情報は口頭、もしくは紙にまとめ回覧した。 来年度引き続き、どの職員でも利用者様に対応で

	きるよう些細な情報も共有していく。
3) サービス管理責任者と主任の協働による支援計画の作成と見直し（計画作成1回／半年の他必要時、モニタリング1回／3か月）	前主任が6月で退職し、主任が不在の3カ月間は、サビ管と現場職員で意見交換をし、計画の作成や見直しを行った。9月からは桑原主任と協働して行ったが、現場職員の方からも気づきがあればその都度報告してもらった。 来年度主任はもちろん、他の職員からも意見を聞き、多角的な視点から支援計画を作成していく。
4) お楽しみやリフレッシュの機会づくり（外出レクリエーション、お楽しみ会等）	【お出かけレク】 6月：風の子楽習館（多伎町） ものづくり体験（マグネット、ストラップ） 9月：小泉八雲記念館・旧居（松江市） 野津めのう店（勾玉ストラップ作り） 12月：クリスマス忘年会（みつばち） お出かけレクは利用者様の高齢化に伴い、一日かけてあちこち歩き回ることが難しくなってきた。 【にこにこの会】 お出かけレクがない月はグループトークを開催し、毎回たわいもないテーマを設け複数人で話をする機会を作っている。人と話をしたり、意見を述べる機会が少ない利用者様にも楽しんでもらっている。しかし、今年度後期は職員体制の不十分さで業務が大幅に滞り、10月以降1回しか開催できなかった。 来年度今後は丸一日のお出かけにこだわらず、半日だけのお出かけにしてみたり、みずうみで昼食を用意し、お楽しみ会を開くなど色々な形で開催を計画していく。

2 利用者様同士が対等に尊重し合う関係づくりのサポート

計 画	結 果
1) 利用者様の関係性に配慮した席の配置	相性が悪い利用者様同士のトラブルを避けるため、作業フロアが同じにならないよう配慮した。関係性があまりよくない組み合わせが複数あり、作業内容によってもフロアが変わってくるので、配置が難しいパズルのような時もあった。 来年度気になる人がそばにいてだけで落ち着いて作業ができなくなる方もおられるため、引き続き

	なるべく接触しないよう配慮していく。
2) 日常的な関わりの見守り	利用者様同士とても仲良くされている人もあれば、人づきあいが苦手で静かに過ごしておられる人など様々。ただ、相性が悪い利用者様同士はなるべく接触しないよう、休憩エリアを分けて過ごしてもらっている。また利用者様から対人関係の相談があれば、しっかり聞き取りをし、間に入って調整を行った。 <u>来年度</u>どの利用者様も穏やかにみずうみで過ごせるよう、日々の言動に注意し、必要時には素早く対人関係の調整を行う。
3) それぞれの思いに寄り添いトラブルを防ぐ	相性が悪い人同士は、些細なことでもどちらかが一方的にいちゃもんを付けることが多い。そういう言動が見受けられた時にはすぐに駆け寄り注意をするが、それだけで終わらず、ご本人の思いを聞くことも大事にしている。そのような言動をした理由をしっかりと聞いて共感、理解を示すことで一人ではないことを感じてもらい、一方的にならないようアドバイスすることを心掛けた。 <u>来年度</u>利用者様の居場所として、なるべく孤独感を感じないような声掛けに努める。

3 安全で健康的な環境整備

計 画	結 果
1) 高齢化に対する安全対策（転倒防止のための環境整備と支援提供）	内職作業が多く、通路に箱を置かざるを得ない状況もあったが、できるだけ動線に影響しないよう注意した。また杖を使用している利用者様が、つい杖なしで歩かれることが多かったため、作業台に杖置きを取り付け、使いやすいようにすることで使用の徹底を図った。 <u>来年度</u>継続する。
2) 感染対策の継続（ハード・ソフト両面の感染防止対策、情報の収集・共有・提供）	コロナの感染は8月末に利用者様1人、3月頭に利用者様1人。事業所内での感染拡大は見られなかった。 11月、職員家族でインフルエンザ感染が相次ぎ、業務に支障が出たため、理事長と協議し、本人に症状が現れていなければ自己判断で出勤可とし、出勤する場合は健康観察の徹底、送迎や面談室で

	の面談を行わず、昼食は面談室でとり、会話もできるだけ控えることを徹底してもらうこととした。その直後、11月末と12月半ばに家族が感染した職員が出勤したが、いずれも本人感染は見られなかった。 マスクに関しては、コロナ・インフルエンザの県内発生の状況に応じて着用をお願いした。 11月後半、インフルエンザ予防接種を利用者様16人、職員7人に自己負担1,000円で行った。 来年度 県内の感染症発生状況の情報収集に努め、引き続き緊張感をもって支援にあたる。
3) 清潔・快適な環境の整備 (寒さ対策等)	寒い時期は暖房をしっかりと効かせるとともに、必要時スポット的に電気ヒーターを利用して対応した。いもの畑作業の際には空調服を着用してもらい、作業時間も短めにして熱中症予防に努めた。 来年度 継続する。

4 リスクマネジメントの取り組み

計 画	結 果
1) 虐待防止委員会の開催 (1回/年)、研修の実施 (1回/年)	○虐待防止委員会 3/25 開催。 ○研修 3/17 実施。4人参加。 講師：美郷町基幹相談支援センター 下田浩二様 来年度 実施する。
2) 感染対策委員会の開催 (4回/年)、研修・訓練の実施 (各2回/年)	○委員会 全4回開催 (7/1、10/1、12/26、3/31) ○研修・訓練 全2回実施 (10/16、3/31) 研修：eラーニング (事前に動画を各自視聴)、マニュアル読み合わせ→意見交換 訓練：机上訓練 (指針、BCPの読み合わせ、行動確認、意見交換) 来年度 予定通り実施する。
3) 感染症まん延時・非常災害発生時の業務継続計画に係る研修・訓練 (各1回/年)	10/16 実施。 研修：eラーニング (事前に動画を各自視聴) →意見交換) 訓練：机上訓練 (指針、BCPの読み合わせ、意見交換) 来年度 各年度1回ではなく、前回実施から丸1年以内に実施する。

〔7年度数値目標〕

計 画	結 果
① 1 日平均利用者数＝13 人	実績＝13.9 人（前年度実績＝12.7 人） 夏と冬は出勤率が下がったが、年間の平均ではほぼ 14 人とよい結果を出せた。 4 月に最も利用期間の長い利用者様が亡くなられ、1 月に施設外就労参加の利用者様 1 人が退所された。12 月から施設外就労のみ希望の利用者様が利用開始。 72 歳の利用者様が 1 月半ばに腎臓病で入院、退院後は高齢者施設に入所となった。また 75 歳の利用者様が 3 月半ばに自宅で大腿骨骨折され入院された。 来年度 季節的に利用率が下がる傾向があるが、できるだけ安定的に出勤できるよう支援していく。
② 「利用者様満足度アンケート」の結果の向上	＊上半期アンケートの結果 概ね「よい」が少し増えたことは評価できるが、工賃は「よい」が大幅に減り、「よくない」が増えた。事業所の環境（設備等）に関して「冷蔵庫が小さい」という声があり、大きい冷蔵庫を休憩室に移動した。 ＊下半期アンケートの結果 上半期よりもさらに少し「よい」が増えた。特に工賃が年明けから上がっていたため、「よい」が大幅に増えた。 来年度 今まで工賃確保の不安から年度末に多く支給していたが、概ね収入が安定してきたため、来年度からは年間を通じてなるべく一定になるよう支給していく。また、日々の支援や快適な環境づくりにも努め、満足度がさらに上がるよう心掛けていく。
③ 就労移行（一般企業または就労継続支援 A 型事業所）＝1 人	今年度実績＝0 人 12 月に入られた調理師資格を持つ利用者様は将来的に飲食店への就職を希望されているが、まずは週 2 日、3 時間の施設外就労で生活リズムを整えていく段階。 他に将来的に一般就労の希望がある利用者様が 2

	人おられるが、生活リズムや体調が不安定であり、安定的な出勤も難しい状況にある。 <u>来年度</u>体調や生活リズム、作業能力が一般就労のレベルに到達すれば、就職に向けた支援を行っていく。
--	--

(3)「現場の課題の見える化」による生産性向上

1 業務改善 ⇒ 支援の質・量の向上

計 画	結 果
業務の明確化と役割分担、業務全体の流れの再構築	落合主任の 6 月退職後、職員の補充がスムーズにいかず、8 月末に採用ができたものの、なかなか今までのように業務が回らない状況が続いた。内職作業量も増え点検に追われるなか事務も滞り、職員の負担感も増大した。 9/22、『現場の課題の見える化』のための話し合いを行い、仕事をしていて日頃感じている困り事や疑問、解決したいこと等を出し合った。それにより課題を明らかにし、解決策をともに考えることができた。 しかし、新採用の職員が 2/23 に肺炎で亡くなり再び欠員となったが、3/30 パート職員を確保でき、年度内によりやく体制が整った。 <u>来年度</u>新しい体制を盤石にし、効率的に業務を回して支援の質を向上していくため、業務の明確化と役割分担、業務全体の流れの再構築を行う。

2 職場環境の改善 ⇒ 働きやすさの向上

計 画	結 果
3M（ムリ・ムダ・ムラ）をなくす、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底等	落合主任退職の 6 月から年度末まで、ずっとぎりぎりの状態で業務にあたってきたため、職場環境や働きやすさが限界の状況だった。 <u>来年度</u>新しい体制が確立し、3M、5S が実践できるよう努める。

3 人材育成と定着

計 画	結 果
研修、チームケアの強化、一人ひとりの働き方サポート（家庭との両立、キャリアア	1) 研修 ○内部研修 9/17 開催。5 人参加。

ップ等)	テーマ：接遇・マナー（介護職としての倫理・価値観・モラルを学ぶ） 講師：島根県介護福祉士会 山本克哉様 ○外部研修 5月：令和7年度発達障がい基礎講座～青年期・成人期～（清水） 11月：令和7年度発達障がい者就労支援研修（清水） 2）チームケアの強化 チーム構成がなかなか定まらず、チームケアの充実が十分できなかった。 3）働き方サポート 有休の取得は順調にできており、家庭との両立はサポートできた。 来年度外部研修に参加してもらう余裕はまったくなかったが、チームケアの強化を優先に進めていく。
-------------	---

第1号議案

令和7年度事業報告

2025年4月1日 ～ 2026年3月31日

特定非営利活動法人 みずうみ

1 事業の成果

7年度は前年度までの経験を生かし、障がい者福祉事業を主体として、下記の事業を実施した。工賃の向上を目指して新規事業「いもの生産・販売」を試験的に実施。利用者様の働きがいや工賃の向上に効果があり、来年度も継続して実施することとした。また、4年度に取得した新施設を活用したレストランでの施設外就労を継続することができ、利用者様の就労訓練、社会参加にも大きな効果があった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
①障害福祉サービス事業所の運営事業	就労継続支援B型事業所運営に必要な総合的支援事業	月～金曜日	ワークケアみずうみ	17人	利用者24人 延べ3339人	23,135
②職業訓練及び就労支援事業	就労のための訓練及び自立のための支援	月～金曜日	ワークケアみずうみ	9人	利用者24人 延べ3339人	4,101
③ノーマライゼーションの普及活動	各団体、組織と共同での啓発活動等(地域イベントへの参加)	令和7年 8月30日	ワークケアみずうみ	17人	利用者24人 延べ3339人	1085 ※1
④リサイクル運動の推進	アルミ空き缶回収・分別作業、回収業者への引き渡し	月～金曜日	湖陵町内、ワークケアみずうみ	利用者、職員、役員、会員、地域住民が協力	利用者24人 延べ3339人	349

※1 「ノーマライゼーションの普及活動」事業では、地域イベント出店による収益及び職員の作業工賃を利用者様のボーナスとして支給した。

